

## 環境教育センター活動報告

遠 藤 晃

### 1. 学生主体の環境教育プログラム実践

環境教育センターでは、自然環境を活用し、学部や大学を越えた学びによる「知の総合化」を目指しています。そのため、環境園芸学部、附属フィールドセンターや連携幼稚園、近隣の児童館など、多様な方々とコミュニケーションを取りながらプログラムを創りあげるプロセスを大切にしています。

対話を重ねることで、子ども、農業、特別支援、学校、行政、地域など、多様なステークホルダーの意見を子どもの教育に織り交ぜながら、目的と手法が一致したプログラムができあがります。「我々はイベント屋ではない！学びの集団である！」を合い言葉に、今年度も様々な活動に取り組みました。

#### (1)夏休み自由研究相談会 in 三股を zoom で開催

8月9日(日)

**訂正版** \オンラインになりました/ オンライン

○開催日時：8月2日 - 8月9日 (日曜日)

○相談方法：ご自宅と大学をオンライン (ZOOM) でつなぐます!!  
(ご自宅の端末機器、ZOOMアカウント、インターネット環境が必要です。)

○完全予約制：申し込み期限 8月7日 (金) 17:00

○申込み方法：下記の内容を明記してメールでお申し込みください。  
折り返し、こちらからご連絡差上げます。 [ntcjk2020@gmail.com](mailto:ntcjk2020@gmail.com)

氏名・学校名・学年・保護者名・連絡先・希望時間帯 (午前・午後・指定なし)

---

南九研究クラブ2020 じゅうけんきゅうそうだんかい

～夏休み自由研究相談会～

みんなの自由研究を南九大生がお手伝いします!

対 象：小学生 (保護者も一緒にどうぞ! 子どもだけでもOK!)

内 容：自由研究の進め方、まとめ方と一緒に考えます

テーマが決まらぬ人、どうして良いかわからない人もどうぞ!

三股町立体育館で8月2日に実施を予定していた自由研究相談会がCOVID-19の影響で会場での実施が難しくなりました。そこで、大学の講義でもお馴染みのzoomを使って、大学と子ども達の自宅を結んだ自由研究相談会に変更して実施しました。

急な変更とzoomのハードルの高さもあってか、残念ながら参加者が集まりませんでした。企画から準備、テストを通して、学生たちはリモート相談会に手応えを感じました。(担当：遠藤晃)

#### (2)夏休み自由研究相談会 in 綾を開催

7月25日(土)・8月22日(土)



昨年度に引き続き、綾町ユネスコエコパークセンターを会場として、夏休み自由研究相談会 in 綾を開催しました。小学生の親子を対象とした相談会の目的は、知識・技術を教えることだけでなく、子ども達を問診して科学のプロセスを整理してあげることです。今回は夏休みの初めと終盤の2回実施して、自由研究のテーマ決めからまとめ方までサポートできる体制を作りました。

7月の相談会は人数を制限して対面で実施し、5名の子ども達と保護者2名が相談に訪れました。学生たちは子ども達の話の聞きながら問診票に沿って、テーマや方法、まとめ方などをアドバイスしていきました。綾小学校の校長先生も見学に来てくださり、小学校との連携を図ることもできました。

8月の相談会はCOVID-19の影響で対面での実施が困難になりました。そこで、三股町での開催

のために準備をしていたzoomを用いた相談会に切り替えて実施しました。前回の反省を踏まえてzoomのハードルを下げるため、エコパークセンターにiPadなど機器を置いて担当教員1名が受付・操作をし、学生たちは自宅からzoomを通して参加者の相談への対応ができるように改善しました。参加者は少なかったのですが、7月の相談会でテーマに悩んでいた児童が再度来場してくれたので、まとめ方などアフターケアをすることができました。

参加した児童は、学生でなくiPadが並ぶ空間に初めは戸惑っていましたがすぐに慣れ、普段からスマートフォンを操作しているためか、iPadをいとも簡単に使いこなしていました。ICTを活用した遠隔授業も、もはや未来の話ではなくなつたようです。(担当：遠藤晃)

### (3)公開講座「森の音楽会 心のバリアフリー」

10月24日(土)



都城キャンパス構内の小さな林地で森の音楽会を開催しました。この音楽会では特別支援学校と小学校に通う子どもたちがいっしょになって、森のなかでドングリや枝などの材料を拾い集め、オリジナルの楽器を創り、最後に演奏を楽しみます。演奏指導は都城でも活躍する音楽普及活動団体「たどぼ〜れ」の皆さんにお願いしました。

大学に集まった8名の児童たちは、アイスブレイクで打ち解けた後、森の中からいろいろなものを拾い集め、思い思いのオリジナル楽器を創りあげます。完成した楽器を手に子ども達は森に集まり、音楽会を楽しみます。音楽会を通して、子

ども達がバリアを持たないこと、私たち大人の方が気を回しすぎて、かえってバリアを作っているように思えたこと、参加した学生もバリアが低くなったように感じたこと、など、それぞれがバリアとバリアを作る何かについて考える良い機会となりました。(担当：遠藤晃)

### (4)連携幼稚園の園児たちとのハードな芋掘り

11月6日(金)



秋晴れのもと、今年も天竜祝吉幼稚園の園児たちを迎えて芋掘りをおこないました。前期に「食と農業」で受講生が植えた、色も形もとりどりの6種類のサツマイモは、消毒や農薬を使わなくてもすくすくと育ち収穫の時期を迎えます。

今年はCOVID-19の影響で開催が危ぶまれましたが、人数を制限し畝間を拡げるなどの対策をすることで子ども達を迎えることができました。

ツルが繁茂し、どこにイモがあるのかもわからない畑で、子ども達はイモの在処を教え合ったり、一緒に土を掘ったり、みんなでツルをひっぱたり、ほりあげたイモの入った重たいコンテナを4人がかりで運んだり、と協力して問題を解決する姿があちこちで見られました。

今年のプログラムで学生たちが立てたテーマは「子どもの社会性の育成」です。子ども達が社会性を発揮するために、イモの蔓を切らない、イモの種類を教えない等「場」と「関わり方」を入念に設定しました。その効果か、30分ほどの間に子どもたちはすべてのイモを掘り尽くしてしまいました。(担当：遠藤晃)

### (5)南九探究クラブ「科学実験教室 塩水で作るレインボー博士になろう！」

12月13日(日)

科学実験教室「塩水で作るレインボー博士になろう！」(主催:理科教育研究室・環境教育センター)を開催しました。この実験教室は、主体的学びの実現のために、「興味・関心」をより高い段階に引き上げるための手立てとして、児童が視覚的に理解することができるもの、日常生活にとっても関連している身近なものを題材にすること、実験・観察・活動を通して試行錯誤や考える時間を設けること等を取り入れたプログラムで、4年生が考案したものです。

今回はCOVID-19の影響で開催が参加者を募ることができませんでしたが、事前の準備に参加して実験を体験した学生たちは、このプログラムに手応えを感じていました。このプログラムは修正を加えて、3年生が春休みに開催する計画です。南九探究クラブの活動はまだまだ続きます。お楽しみに。(担当:遠藤晃)



## 2. 環境に関する授業サポート

環境教育センターでは、子ども教育学科と環境園芸学科が協働したコラボレーションのコーディネートとサポートをしています。今年度は下記の講義でセンターが活用されました。

### (1)食と農業(2年次開講)

食と農業はフィールドセンター(以下、FC)教員とのコラボ授業です。FCの圃場を使って栽培の専門技術だけでなく、教育への活用法について学びます。11月に実施した芋掘りでは、この

畑で栽培されたイモが使われました。一つの畝に3種類のイモを植えることは栽培効率は悪いのですが、子ども達への教育効果を高めることを学生たちが考え抜いた結果、選択した方法でした。



### (2)環境教育論(3年次開講)

環境教育論では、学校の教科などに関連させた環境教育について体験的に学んでいきます。今回は水と森林をテーマにして、環境教育センターのサポートにより、川の水質調査や薪割り、薪ストーブ、椎茸コマ打ち等を体験しました。これらの体験は、小学校の総合的な学習の時間をイメー



ジして行われ、他教科などとの関連を考えながら  
ESDカレンダーへとまとめられていきます。

子ども教育学科の環境教育は、単に環境の問題  
を扱うのではなく、学校教育に求められている教  
科横断的・探究的・主体的・対話的で深い学び、  
カリキュラムマネジメント、社会開かれた教育課  
程などについて、ESDの視点から具体的なイメ  
ージを作る内容になっています。